



CFI ニュースレター C2022-07 信仰を問う

[今月の聖書]

「もうしばらくすれば、きたるべき方がお見えになる。遅くなる事は無い。わが義人は、信仰によって生きる。もし信仰を捨てるなら、私の魂はこれを喜ばない」。しかし私たちは、信仰を捨てて滅びるものではなく、信仰に立って命を得るものである。(ヘブル 10: 37-39)

さて、信仰とは、望んでいる事柄を確信し、まだ見ていない事実を確認することである。信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。…なぜなら、神に来るものは、神がいますことと、ご自身を求めるものに報いてくださることとを必ず信じるはずだからである。(ヘブル 11: 1.6)

見よ、その魂の正しくないものは衰える。しかし義人はその信仰によって生きる。(ノバクク書 2: 4)

あなた方は、イエス・キリストを見た事はないが、彼を愛している。現在、見てはいないけれども、信じて、言葉に尽くせない、輝きに満ちた喜びに溢れている。それは信仰の結果である魂の救いを得ているからである。

(第一ペテロ 1: 8、9)

私は常に主を私の前に置く。主が私の右にいますゆえ、私は動かされる事は無い。(詩篇 16: 8)

私は常に目の前に主を見た。主は、私が動かされないため、私の右にいて下さるからである。(使徒行伝 2: 25)

紅海を二つに分けられたものに感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。(詩篇 136: 13)

するとペテロが答えて言った、「主よ、あなたでしたか。では、私に命じて、水の上を渡って御もとにいかせてください」。イエスは、「おいでなさい」と言われたので、ペテロは船から降り、水の上を歩いてイエスの所へ行った。しかし風を見て恐ろしくなり、そして溺れかけたので、彼は叫んで、「主よ、お助けください」と言った。イエスはすぐに手を伸ばし彼をつかまえて言われた、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」。(マタイ 14: 28-31)

神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛してくださった。それは御子を信じるものが一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。(ヨハネ 3: 16)

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「信仰を問う」と題して、私たちの信仰の土台からもう一度総点検したいと思います。洗礼を受けて教会に所属しているからクリスチャンであり、当然信仰があると考えてしまう場合があります。確かに他の宗教ではなくキリスト教信仰を選択していると言えるでしょう。

しかし試練にぶつかったときに、神が必ず祈りに答えてくださるという確信を持ち得るか?心は安心立命の境地で、一切を神に委ねることができるか?このたびのウクライナ戦争のような悲劇が私たちの上にも襲ってきたときに、信仰者として不動の確信を持って天国を目指すことができるか?

私は幼い頃、熱心な信仰者であった父に「お前は信仰がなっていない。しっかりしなさい。」とよく叱咤激励されたものです。今70代になって、「本当に私の信仰はなっていないかったな、そのためにしばしば試練の真っ只中で悩んだなあ」といろいろ思い出しています。

聖書は何と言っているのか?私たちの不信仰をどのように突破したらよいか?迷いの雲を振り払って、はっきりと神の栄光を見るにはどうしたら良いか?私たちの信仰のレベルアップが求められているのではないのでしょうか。ご聖霊があなたの心に深くかたりかけてくださるようにお祈りしています。

(お知らせ)

*引き続きウクライナ支援募金にご協力ください。小さな祈りを積み上げていきましょう。

*地区集会について検討しておりますが、まだ感染状態がおさまっていません。

また私の健康状態が少し弱っております。千葉集会、横浜集会、自由が丘集会についてご希望のご連絡をいただいておりますが、もうしばらくお待ちください。

「破れ口に立って」

「それ故、主は彼らを滅ぼそうと言われた。しかし主のお選びになったモーセは破れ口で主のみ前に立ち、み怒りを引き返して、滅びを免れさせた。」（詩篇 106: 23）

聖書時代の石を積み重ねた城壁も、敵の攻撃によって破れることがありました。敵は破れ口から一気に怒涛のごとく侵入して来ます。そこには「破れ口」を守る兵士が求められました。

今日日本のキリスト教会は、色々な意味で破れを繕わなければなりません。戦後昭和時代のような教会の協力と、宣教の前進が見られません。かつて迫害を経験した気骨のある牧師たちが一致団結して伝道に立ち上がった時代は過ぎてしまいました。明確な使命感に立った祈りの器が求められています。



今日日本のクリスチャンたちは、色々な意味で破れ口に立っています。御言葉の真理を探求する真剣さが見えるか。聖霊の油注ぎを求めて熱心に祈る人々の群れがあるか。この世とはっきりと一線を画して神の子供たちの道を歩いているか。キリストの愛の実践者はいるか。

巻頭の聖書の御言葉は、エジプトを出て紅海を奇跡的に渡り、荒野に出たイスラエル人たちが、モーセが山に登って見えないからといって金の子牛を作り、まことの神の御怒りに触れた記事です。彼らは神の御業をたちまちのうちに忘れてしまったのです。肉欲と偶像礼拝に走ってしまいました。

しかし、神の裁きの前に、モーセが立ちはだかりました。自分の命を投げ出してイスラエルの愚かな人々の赦しを乞うたのです。

それは「執り成しの祈り」でした。今、日本のキリスト教会が神の祝福を受けるために「破れ口の祈り」を捧げる人が求められています。執り成しの祈りが各地に燃え上がる必要があります。それは愛の祈禱の炎です。

新約聖書において「破れ口の祈り」を捧げられたのは、まさに十字架上のイエス・キリストでした。その執り成しのおかげで私たちは赦され、生かされ、永遠の命をいただいているのです。執り成しの祈り手に祝福がありますように。

小田 彰

暗い夜道は朝明けへの道。垂れ込めた雨雲は輝きへの幕。絶望は希望への扉。